（様式２）

27081・37081・47081

# 令和7年度　自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月 24 日
市立札幌山の手支援学校

## 1　本年度の重点目標

Ⅰ　児童生徒が安心して学ぶことができる教育環境の充実

■ 人間尊重の教育　■ 児童生徒理解　■ 主体性　■ 成功体験　■ 自己肯定感　■ 相互承認　■ 豊かな心
■ 防災安全教育　■ ICT 機器等の活用

Ⅱ　一人一人の実態に応じた授業づくりと教育課程の改善・充実

■ 個別の指導計画　■ 自立活動　■ AAR サイクル　■ 課題探究的な学習　■ 個別最適な学び　■ 協働的な学び
■ カリキュラム・マネジメント

Ⅲ　社会とのつながりの中で学ぶ教育活動の展開

■ 個別の教育支援計画　■ キャリア教育　■ 外部人材の活用　■ 主権者に関する教育
■ 社会に開かれた教育課程　■ 情報発信

Ⅳ　学び合いと働きがいのある職場環境の整備

■ 業務の効率化　■ 業務内容の平準化　■ 専門性の向上　■ 授業（業務）改善　■ ライフ・ワークバランス
■ 心身の健康管理

## 2　本年度の経営方針

ウェルビーング（Well-being:健やかさ）の向上をめざした学校づくりの推進
～心理的安全性を基盤とした教育活動の展開～

校内におけるアンケート回答数:児童生徒 15 人、保護者 15 人、教職員 43 人

**学校関係者評価：A(適切である) B(ほぼ適切である) C(あまり適切でない) D(不適切)でご記入ください**

## 3　自己評価結果に対する学校関係者評価

| 分野 | 評価項目 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 達成状況 | 改善の方策 | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| 重点目標 | 本年度の重点目標や各部の重点は、児童生徒の実態、学校課題等を踏まえた内容となっている。 | A | 重点目標等が変わり、目指す方向性やキーワードが明確になった。ウェルビーイングは、みんながイメージを共有しやすい言葉に変更する。 | A | A |
| | 目標の達成に向けて教職員が協力し、組織的に教育活動に取り組んでいる。 | A | 重点目標を踏まえた教職員間での情報共有、連携が取れている。各学部とも児童生徒の実態、学習課題をもとによく吟味して作成されており、かつ、達成するように指導している。 | A | A |

| | |
|---|---|
| 学校関係者評価委員による意見 | ・自己評価・改善策ともに適切である<br>・ウェルビーイングは「健康」と同じくらい深い意味を持つ言葉。このまま使用し、絶え間なくどんな意味だろうと考えてみるのも良い。 |

（様式２）

| 分野 | 評価項目 | 自己評価 達成状況 | 自己評価 改善の方策 | 学校関係者評価 自己評価の適切さ | 学校関係者評価 改善策の適切さ |
|---|---|---|---|---|---|
| 学部 | 小学部は、児童が『～したい』を膨らませ、その実現に向けて、自ら挑戦することができるよう支援している。 | A | 児童の『~したい』を引き出し、それが実現できるように支援している。子どもの思いや自信が深まっている。 | A | A |
| | 小学部は、児童が自分のよさ・他者のよさを認めながら協働できるよう、指導および学習活動を行っている。 | A | 協働について、限られた環境で試行錯誤はできているので、あきらめず取り組み続け、学習内容や活動の工夫をしていく。 | A | A |
| | 中学部では、個々の生徒のニーズ等に応じた教育が行われている。 | A | 校内研究で個々の実態の共通理解と現在必要な学習内容や手立てなどを定期的に話し合う機会がもたれ、単元などに反映することができた。引き続き取組んでいく。 | A | A |
| | 中学部では、進路学習や総合的な学習の時間、個別の面談などを通して、生徒の将来の生活や進路に対する意識や意欲を高めている。 | A | 本人、保護者と連携しながら指導の充実を図るとともに、自立や特別活動の時間を通して、必要な力が身に付くように学習内容を設定して進めている。 | A | A |
| | 高等部では、生徒が自分自身を考える機会をもてるよう、社会に開かれた教育課程の中で指導を行っている。 | A | 生徒の実態に合わせて、適切な指導が行われ、一人一人に沿った教育を行っている。学校設定項目「キャリア探究学習」を効果的に用いている。 | A | A |
| | 高等部では、HR（ホームルーム）等で個別の面談や進路情報の提供、進路学習や体験的学習を通して生徒の進路に対する意識や意欲を高めている。 | A | 今年度より、重複障がい学級が数年ぶりに開設され、進路への啓発的な学習カリキュラムや個別に進路懇談を行い、卒業後に向けて様々なプログラムが用意され、効果が上がっている。 | A | A |
| 学校関係者評価委員による意見 | ・自己評価・改善策ともに適切である<br>・特にありません。大変良く取り組んでおられます。 | | | | |
| 教務部 | 学校は、道徳教育について、学校の教育活動全体を通じて指導することを意識している。 | A | 本校は少人数であるため、日常の中で生徒の多様な価値観や考え方に触れる機会が少なく、道徳教育が特に重要になる。今後も学部の枠を越えて交流や授業を行うなど工夫が必要。 | A | A |
| | 学校は、「雪、環境、読書」の取組みを授業などの中で実践している。 | A | 各学部、各教科等で工夫して取組んでいる。今年度は、学校図書館を活用した授業や活動が多く行われていた。 | A | A |
| | 学校は、「主体的・対話的で深い学び」の趣旨を踏まえた指導・評価を行っている。 | A | 各学部の取組みを相互に関連付けながら、個に応じた学びの連続性を一層深め、教育課程全体のさらなる充実を図る。 | A | A |
| | 学校は、ICTを効果的に活用し、個々の児童生徒の状況に応じた学習機会の確保、児童生徒の学習意欲の向上を図っている。 | A | ICT の活用を日常的に取り入れ、効果的に活用している。今後、生成 AI の導入を検討しているので教職員研修を進めている。 | A | A |
| 学校関係者評価委員による意見 | ・自己評価・改善策ともに適切である<br>・特にありません。大変良く取り組んでおられます。 | | | | |

（様式２）

| 分野 | 評価項目 | 自己評価 達成状況 | 自己評価 改善の方策 | 学校関係者評価 自己評価の適切さ | 学校関係者評価 改善策の適切さ |
|---|---|---|---|---|---|
| いじめ防止対策 | いじめ対策組織会議を月1回設けて、状況確認を行っている。<br>学校は、いじめ防止のための取り組みを学校ホームページ等で発信し、アンケートや面談を定期的に行うことで児童生徒の不安や悩みを把握する取組みを行っている。 | B | いじめ対策および未然予防において、学校独自アンケートや全体指導、個別対応等充実した指導を行っている。心と体の健康アプリケーションの活用について、入力頻度が少ない生徒が出てきたので、教員全体で入力状況を把握できるようにした。心身の状態や相談したいという児童生徒の心情を把握しやすい環境整備をすすめている。 | A | A |
| 児童生徒指導部 | 学校は、あいさつ週間や学校祭児童生徒会議などを通して人と関わることのよさを感じ、児童生徒が自分から挨拶し、その場にふさわしい言動をとるよう指導している。よう指導している。 | A | 児童生徒の成果や課題を「あいさつの木」にして共有することで学び合う姿が見られ、学びを深めることができた。次年度もあいさつ週間は継続し、児童生徒の意見からより具体的な目標設定に繋げるよう努める。 | A | A |
| | 学校は、日常の給食指導や安全指導を通して、児童生徒が健康な生活を意識できるよう工夫している。 | A | 継続的な情報発信の他、年間3回、2階スペースを活用して食に関する掲示を行い、食への興味関心が高まるような取組ができた。次年度も継続して、計画的に進める。 | A | A |
| 学校関係者評価委員による意見 | ・無記名アンケートの限界を踏まえ、評価理由を把握できる仕組みや補完的な聞き取り体制の強化が求められる。特に新入生や重複障がいのある生徒に配慮した相談支援の工夫を進め、アプリの活用も含め不安や悩みの早期把握と継続的な個別対応の充実を図っていただきたい。<br>・児童生徒の不安や悩みについては、生徒がより相談しやすい環境づくりが進むことを期待します。<br>・自己評価・改善策ともに適切である。いじめ防止対策の改善は、アンケートや面談結果を通して引き続きの対応と検討をお願いする。<br>・適切な改善策と思います。 | | | | |
| 支援研究部 | 学校は、教育的ニーズに応じた指導支援の実現に向けて、専門性や指導力の向上につながる研修や研究を推進している。 | A | 校内スキルアップ研修の内容は充実しており、医療機関との関係者と情報交換や連携強化を図れている。一層の校内への周知が必要性。 | A | A |
| | 学校は、医療機関などの関係機関と連携するなどして、教育的ニーズに応じた指導支援につながる環境を整えている。 | A | 病院からの情報が円滑かつ全体や教科担当により伝わりやすい、情報共有体制の充実化を図る。 | A | A |
| 学校関係者評価委員による意見 | ・アンケートで示された少数の否定的意見を受け止め、教育的ニーズへの対応や医療機関連携、緊急時の安全体制について要因分析を行い、学部間で共有しながら具体的な改善につなげていただきたい。<br>・研修参加率が低いという課題が見られたため、今後の改善に期待します<br>・自己評価・改善策ともに適切である<br>・特にありません。大変良く取り組んでおられます。 | | | | |
| 組織運営管理 | 学校は、児童生徒の個人情報管理を適切に行っている。 | A | 保護者宛て文書の誤送を防ぐため、今後も児童生徒の個人情報管理については適正に取り扱う。 | A | A |
| | 学校は、施設・設備の整備に努め、安全で整った教育環境をつくっている。 | A | 安心して学習が行える環境整備に努める。施設設備の整備は、北海道医療センターと連携して取組む。 | A | A |

（様式２）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 学校は、児童生徒の実態に応じて必要とする教材や教具を整備している。 | A | 引き続き研究研修を進め、児童生徒が意欲をもって学習できる環境づくりに努め整えていく。 | A | A |
| | 学校は、学校の取組みやさまざまな情報について、学校だよりや各種たより、ホームページなどで情報発信している。 | A | 今後も学校だより、学校ホームページを通して本校の教育活動を継続的に発信していく。 | A | A |
| | 学校では、事故や災害、感染症対策など緊急時の安全対策や連絡体制が確立している。 | A | 「すぐーる」という学校・保護者間連絡システムが有効に働きはじめ、連絡体制は確立している。必要な災害や緊急時に対応する訓練は、引き続き、定期的に行う。 | A | A |

| | |
|---|---|
| 学校関係者評価<br>委員による意見 | ・自己評価・改善策ともに適切である<br>・特にありません。大変良く取り組んでおられます。 |